

地域医療連携室たより

No.21

発行日
2011年6月1日

医療法人社団松柏会
至誠堂総合病院



地域医療連携室たより
第21号

東日本大震災 被災地支援を行う

3月11日の東日本大震災で被災された方々にお見舞い申し上げます。松柏会では被災地に医師、看護師、リハビリ技士、事務などの人的支援、そして物資支援をいち早く行いました。3月13日から宮城県塩釜市にある坂総合病院に、4月からは4クールに渡り、松島町の松島海岸診療所に人的支援を行いました。そして3月24日には全職員に対し報告会を行いました。



伊藤 英三 副院長 3/15～16 体育館で死体検案書を書く

初日は利府町の体育館に行き、津波で亡くなられた人の死体検案をおこないました。あれほど多く死体検案書を書いたのは、初めてでした。冷たくなった御遺体がたくさん安置されていました。次の日は、トリアージにより振り分けされた患者を診ました。私は赤のブースで、患者を診ました。赤は最重症であり、短時間で診断、治療し、方針を決めるということを行いました。すべての情報が本部に集中され、指示が出るというシステムが徹底していました。

寒河江祥子 看護師 3/16～3/19 看護師として、緊張のなかで

トリアージ外来に配置されました。4人でひとつのグループで、赤、黄、緑のトリアージを行い、それぞれのブースに患者を送りました。DMAT（災害派遣医療チーム）に所属している看護師が同じグループにいました。訓練されており、対応が的確でした。私は黄色ブースで夜勤と日勤を行ってきました。科別ではなく、重症度別なので、腹痛を訴える32週目の妊婦さんや、腕や足を骨折した患者など、様々な疾患に対応しました。「看護師」という看板を背負っていく以上は、何ができないということは言えません。経験したことがない病気でも頭に入れておかななくてはならない。看護師としての責任の重さを実感しました。



杉原 保 医師 3/16～3/18 全国の支援者と共に

原発反対の運動している友人からメールが届きました。福島第一原発で起こっていることがいかにたいへんなことなのかと考えます。危惧していたことが起こったと見ています。震災当日、私は仙台空港にいて被災しました。津波が押し寄せてきて、空港で一晩過ごしました。坂総合病院では、黄色ブースでトリアージされた患者の診療を行ってきました。また多賀城の中学校、体育館の避難所を訪問し、健康相談、診察を行いました。全国から集まった職員が一致団結して事にあたるという体験ができました。



中島 幸裕 医師 3/19～21、5/3 私たちの支援は現地を大きく励ましている

阪神大震災以来、17年ぶりの支援でした。阪神大震災の時に使ったシュラフ（寝袋）を家で探し、それを持っていきました。今回は地震、津波、原発が重なった災害です。全国から多職種が支援にかけついています。私たちの支援は被災者にとっては、とても心強いものです。現地に行くこと、声をかけていくことが、被災者を大きく励まします。

**当院 猪口事務長に聞く 東日本大震災の経験を通して****～患者の皆さんのために今、
何を準備すべきか～****猪口 雄太** 至誠堂総合病院事務長

3月11日（金）震災直後、松柏会では「東日本大震災対策本部」を設置し、様々な対応をしてきました。11、12日の動き、今後の課題を聞きました。

- 11日（金）** 山形市内全域、停電となりました。病院はすぐに非常用電源が稼働し、人工呼吸器など必要最小限の医療機器だけが動きました。エレベーターは停止。そのため、午後6時に病院給食を全職員で6階まで声かけながら、リレー方式で配膳しました。在宅部門では高齢者世帯の安否確認を行い、おひとりが緊急入院しました。当直の医師・看護師、病棟の夜勤の看護師数を増やして対応し、薬局、検査、放射線も13日まで泊り込みました。
- 12日（土）** 午前8時10分ころ病院の電気が復旧しました。被災地からの患者受け入れに備えて臨時のベッドを5床確保しました。
- その後** 一番苦労したのは、燃料の調達です。重油が手に入らず、館内の暖房を1日2時間に制限し、入院患者の入浴も控えてもらいました。まだ寒い時期でしたので、患者の皆様にはご不便をかけました。医薬品、経管栄養剤、食料なども入手困難となり、処方日数を制限するなど対応しましたが、現在はほぼ正常化しました。なんとか乗り切ることができました。
- 一方で、当院は全日本民主医療機関連合会（民医連）に加盟しており、現地の民医連病院、診療所を拠点とした被災地支援を行っています。この間（5月3日まで）、支援者は当法人で医師、看護師を含めて延べ65人、123日に及んでいます。これからも可能なかぎりの支援を続けていきたいと考えています。

明らかとなった今後の課題

大きく分け、2つの課題があります。1つは病院の機能を維持して、患者を守るための課題、2つには地域の被災者、患者会・友の会会員への支援活動を継続する課題があります。

具体的には病院の耐震など構造上の問題、医薬品、医療材料、燃料、食料の確保をどうするかなど備蓄も含めて検討が必要です。また、災害時に被災者を受け入れる入院ベッドの確保、地域内外の医療機関との役割分担を含めた連携について、酸素療法、経管栄養などを行っている在宅患者への対応について、災害初期の患者受け入れ態勢確立などの課題が明らかになりました。また、地域への支援活動を行うために避難場所の把握、患者や友の会会員の名簿を整理して置く必要があります。

最後に、災害時でも、患者や地域の方々に頼られる病院であり続けられるように事前の準備が必要だと痛感した経験でした。

一日も早い復興を

中村 春美 看護師

(5病棟) 3/18~3/20

支援業務 塩釜・多賀城避難所の問診・診察介助・薬処方
坂総合病院での黄色ブースでバイタルチェック・診察介助・処置

現地での自分の支援活動は3日間で帰ってきましたが、今後何年かかるであろう復興のため、風化することなく、自分ができることを意識して続けていきたい。



5月1日坂総合病院にて

左から鈴木静代看護師、鈴木光典医師、黒沼洋子看護師

板垣 有香 保健師

(保健予防課) 4/19~4/22

支援業務 松島町磯崎、品井川地区地域訪問、旧薬局へドロ片付け、デイサービスの書類片づけ

地域訪問では、余震が続いており、夜眠れない、また起こるのではないかと心配や不安をもっている方が多かった。今後、精神的なケアが重要になってくると思った。



さあ、出発 5月2日坂総合病院支援

左から兼子憲一臨床工学士、富樫厚仁医師、黒沼洋子看護師、中島幸裕医師

佐原いづみ 理学療法士

(リハビリ科) 4/10~4/13

支援業務 通所リハビリでのリハビリ支援、東松島での地域訪問

報道では知っていましたが、自分の目で見て、感じた現地は想像を絶するものでした。デイサービスでのリハビリを通して、その時間だけでも利用者が笑顔になってくれたことがうれしかったです。



ちょっとひと休み、寝袋で就寝。

3月18日 坂総合病院にて

左から中村春美看護師、堀越ゆかり看護師、中島幸裕医師

加藤 正樹 介護支援専門員

(至誠堂ケアプランセンター みらい) 4/1~4/4

支援業務 松島町野蒜、大塚地区の地域訪問、松島海岸診療所の清掃活動

地域訪問では、片付けの忙しいなかでも手を止めて「地震時の状況」「被害の大きさ」「自分や家族の健康状態」等を話していただいた。地域住民同士での情報網も強くあり、人と人のつながりがあり、また、全国からの支援者の「絆」を実感した。



態がでております。また、高齢者の生活のなかで医療費が生活を圧迫しています。

「無料・低額診療事業」は生活困窮な方へ、基準に基づき、医療費の自己負担額の免除、または減額を行います。必要な診療・治療を最優先として行います。

地域で困っている方がいましたら、ご紹介ください。

連絡先 至誠堂総合病院 地域医療連携室 (023-622-7181)

無料・低額診療を始めました

当院は本年1月1日より第二種社会福祉事業「無料・低額診療事業」の認可を山形県より受けました。経済情勢の悪化により、雇用が厳しいものになっています。医療費の自己負担が払えず、医療機関を受診できずに体の状態を悪化させる事



私の血圧、計れる？ 5/12ふれあい看護体験

我が街 桜町・木の実町・旅籠町商店街 ⑩



ブティック YAMADA

山形市木の実町9-5 TEL 023-622-2652

◇山田 政宏さん、愛さんに聞く

1935年（昭和10年）に創業の洋品店です。初めは毛糸、手芸用品、裁縫道具などの商いから始まりました。以前は出張販売などをするとおもしろい程売れましたが、今は景気が悪く、購買力が落ちていると感じます。また、郊外の量販店に押されています。

しかし、いい商品は長持ちします。お客さんとお茶を飲みながら、ゆっくり買い物を楽しんでもらい、地道に商いをしていきたいと考えています。これから夏物がどんどん入ってきます。どうぞ、お気軽にお店をのぞいてみてください。



日本医療機能評価機構認定施設
病院機能評価 Ver.5

編集後記

4/28～4/30まで松島に被災地支援に行った。その際見た被害の実際や支援の必要性を今後伝えていきたいと思う。(K)

至誠堂総合病院 地域医療連携室

山形市桜町7-44
023-622-7551 (直通)
http://www.shiseido-hp.jp
E-mail mail@shiseido-hp.jp
発行責任者 至誠堂総合病院副院長
伊藤 英三
編集 地域医療連携室